

オープン市場短信 (2012年5月)

2012. 5. 10

◆ 4月のCP市場動向

4月のCP新規発行額は約4兆5400億円となり、期落ち（約2兆7900億円：当月発行分含む）を約1兆7500億円上回った（除く、相対発行・金融機関発行CP・ABC P）。

3月期末、有利子負債圧縮目的で期末発行残高をゼロとした鉄鋼2社の復活発行が目立った。また、電機メーカーや電力会社が積極的に動き、他業種でも復活や新規発行を行う企業が多かった。その結果、月末残高は15兆1805億円と前月比1兆5,577億円増加した。

発行レートは大幅発行増となったものの、投資家やディーラーの購入ニーズが強く、全般的に低下地合いが続いた。ショートターム物では0.105%割れ～0.11%台前半での出会い。新発（3M）物の発行レートは、最上位銘柄（a-1+格）で0.106%～0.118%、一般事業法人（a-1格）で0.11～0.135%、その他金融銘柄（a-1格）では0.11%～0.128%。

【格付け別の発行レート】

4月のCPレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(一般事法)	0.1048% ～ 0.1240%	0.1080% ～ 0.1090%	0.1060% ～ 0.1180%
a-1 (一般事法)	0.1053% ～ 0.1210%	0.1099% ～ 0.1290%	0.1100% ～ 0.1350%
a-1+(リース銘柄)	0.1039% ～ 0.1060%	0.1080% ～ —	0.1098% ～ 0.1100%
a-1 (リース銘柄)	0.1100% ～ 0.116%	0.1088% ～ 0.1200%	0.1100% ～ 0.1280%
a-2	— ～ ケ0.25	— ～ ケ0.30	0.142% ～ ケ0.40

《CPオペ》

CP等買入オペは13日・26日と2回の入札を行い、オファー額は各回3千億円にて実施された。今月のオペ入札では、足切り・平均レートが前月比若干低下した。その理由としては、①投資家ニーズが強く、セカンダリー売買が活況で、ディーラーの在庫保有が少なかったこと②新発物発行レートが低下している上に、期間の短い発行案件が多く、オペに売却する玉が不足していること等があげられる。

4月末の買入オペ残高は、1兆5765億円（前月比195億円減）となった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
4月13日	4月16日	3,000	5,390	2,897	0.012%	0.013%	8.4%
4月23日	4月26日	3,000	4,535	2,978	0.010%	0.011%	55.3%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

《 A B C P 》

A B C Pは、前月比 3,040 億円の大幅減少となって、2 兆 2834 億円であった。前年比でも 1,223 億円減少した。

《 短期社債残高 》

業態別残高推移を見ると、前月比で一般事法が40.38%の大幅増加、その他金融法人で11.88%増加。一方、A B C Pは11.75%、金融機関で4.26%の減少となった。

4月の新規発行企業はゼンショーホールディングス1社で、通算の発行企業数は518社。月末時点における発行登録（証券保管振替機構）企業数は、496社であった。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	4月末残高	3月末残高	増減
一般事法	46,977	33,463	13,514
その他金融	54,943	49,108	5,835
金融機関	27,051	27,783	▲ 732
（ 政府系金融	560	500	60 ）
（ 銀行等	9,628	9,852	▲ 224 ）
（ 証券	16,863	17,431	▲ 568 ）
A B C P	22,834	25,874	▲ 3,040
計	151,805	136,228	15,577

（注：買入消却分含む）

《 C P 現先市場 》

現先（S/N）レートは4月中も落ち着いて推移し、0.10%近辺～0.105%程度での出合いであった。連休越えも特に波乱は無かった。

◆ 5月のC P市場動向

5月中のC P償還額は約3兆3640億円で、前年同月の償還額（約2兆9900億円）を上回っている（除く、ダイレクトC P・金融機関発行C P・A B C P）。

今月の発行動向は、例年同様に中旬から賞与資金手当てや税払い等の資金調達ニーズが生じることや、夏場の電力需要の高まりに備え、電力会社の資金調達も活発になることから、中旬以降活況が予想される。発行レートは、ディーラー・投資家共に運用ニーズが強く、一部電機メーカーや発行頻度の高い銘柄を除き、低位安定地合いが続くと思われる。一般事業法人（a-1格）3M物では、0.10%台後半～0.130%台半ば、その他金融で0.110%台半ば～0.12%台半ばを予想する。

《CPオペ》

今月は、8.16.24日に3回の入札が実施される予定。今月中旬からの発行増を見据えて、オペ回数を多くしたと推測される。しかし、先月同様に投資家の購入ニーズは旺盛で、ディーラーの在庫保有が増えない状況であり、応札額はさほど膨らまないと思われる。その為、オペレート（足切り・平均）は4月よりも低下する動きとなるのではないかと推測される。

月末オペ残高は、1兆8000億円程度を予想する。

《CP現先市場》

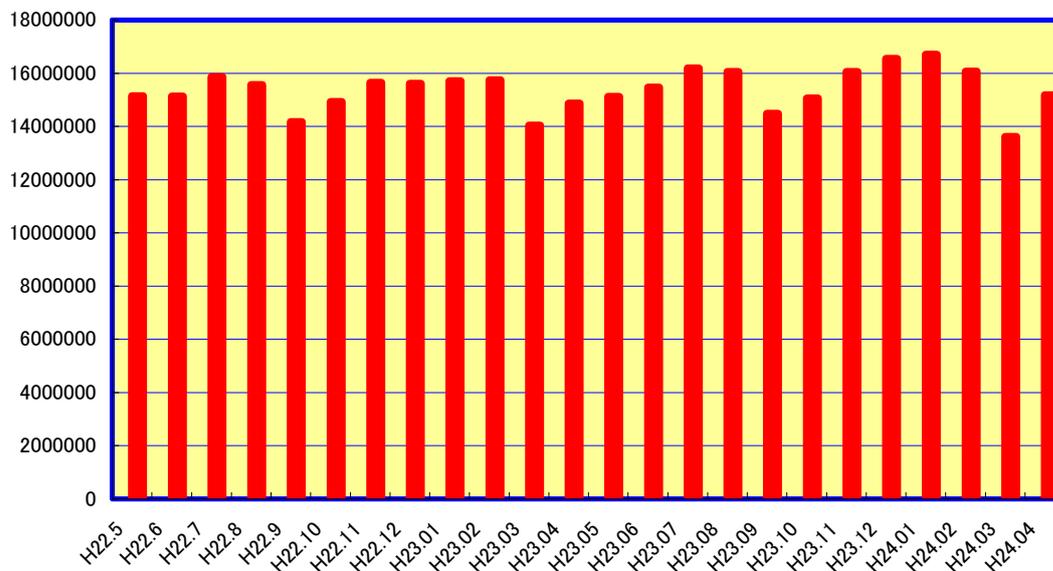
日銀は、引き続き潤沢な資金供給を行なっている。インターバンクレートは0.09台前半～0.10%近辺で推移。レポレートも同水準での動きを予想する。CP現先レートは、0.10%近辺～0.10%台半ばでの出合いで、先月同様落ち着いた動きとなるだろう。

参考資料

短期社債月末残高（23年4月～24年3月）

発行登録企業：496社（発行実績あり518社）

（過去2年間の残高を表示）



4 月末発行残高ベスト 20

4 月末発行残高上位 20 社

(単位:百万円)

	発行企業名	4月末残高	3月末残高
1	三菱UFJリース	706,900	686,300
2	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	699,200	729,110
3	三井住友ファイナンス&リース	651,800	648,400
4	東京センチュリーリース	601,800	583,000
5	パナソニック	550,000	290,000
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	478,600	530,100
7	みずほフィナンシャルグループ	440,000	440,000
8	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	400,740	437,660
9	JXホールディングス	395,000	404,000
10	アルカディア・ファンディング	375,620	400,730
11	シャープ	369,500	351,000
12	興銀リース	335,400	330,000
13	野村証券	322,000	313,000
14	芙蓉総合リース	313,400	273,700
15	大和証券キャピタルマーケット	296,880	280,880
16	みずほ証券	293,800	333,300
17	JA三井リース	287,000	287,000
18	オリックス	245,100	220,000
19	フォレスト・コーポレーション	241,944	322,342
20	JFEホールディングス	211,000	0

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会